資料２

第１回社会福祉事業団問題等第三者検証委員会（平成 26 年 1 月 17 日）における主な意見

検証テーマ	意　　見
①事件・事故の検証	○検証のために支援記録や死亡診断書や事故報告の検証が必要。 ○最後は病気で亡くなっている。手遅れでなければ助かっていたはず。なぜ異常に気付かなかったのかはポイント。 ○各委員の専門を生かして広範に検証すべき。センターではここ数年で２名亡くなっているが、それは問題ないのか。 ○「何かがおかしい」と気付いて、どのラインで受診が必要と判断するかが問題。
②事業団のあり方	○今、暮らしている人がどうなるかが喫緊の課題。退所（転所）の試みは行ったか。〔⇒いくつか当たったが、直接の受け入れは困難、人の派遣で応援したいとのことであった旨回答。〕 ○第三者委員会や苦情受付など制度はいろいろあるが、機能しなかったことの検証が必要。 ○被害者救済が必要。現場は改善されているのか。すぐに体制を整えるべき。〔⇒更生園の支援スキルのある職員を養育園に配置し、施設内のソファを増設するなどした結果、改善している旨回答。〕 ○不適切な対応や事故など、討議・報告の機会があったか疑問。 ○保護者が連れて帰るケースが今回はなかった。ここしか行き場がない、という状況で起きたという点では、より深刻。 ○更生園の支援報告の会に長年出席。体罰的なものは今まで一度も報告がなかったのは残念。 ○養育園では民間で対応できない困難なケースを受け入れてくれた。県内のケア体制を構築する中で養育園が担ってきた役割は大きい。 ○重度の利用者への支援であり、大変難しい問題かと思う。 ○職員配置や支援技術が劣っていることはない。若手も意欲的な事例報告を行うなど、むしろ支援技術は高いレベル。それなのに虐待が行われていたことは驚き。 ○視察した際のやり取りで、虐待についての認識不足を感じた。技術については一生懸命だが虐待の意識が少しずれていたのかもしれない。 ○職員・利用者も多く、県との関わりも深い。大きな役割を担っている施設でこういう問題が起きた際のモデルを作らないと。
③センターのあり方	○センターの県の中での位置付けはどうか。ここしか頼るところがないという面もある。 ○家庭の事情、親から虐待を受けて入所、というケースも多い。児童期のケアのあり方も含め課題整理すべき。
④その他	○現地に行くことや、保護者からのヒアリングも必要。 ○行動障害の場合、利用者だけを見るのではなく、家庭や地域の支援も考えないといけない。 ○本人、保護者、関係者（学校、診療室）からの聴き取り・連携はどうか。〔⇒本人はコミュニケーションの問題で難しい、診療室看護師は聴取を実施、学校には教育庁と連携し児童のケアを依頼、児相・市町村にもそれぞれ依頼、保護者からも聴いていきたい旨回答。〕 ○会議の場だけで資料を読み込むことは困難。会議以外にも読み込む時間を作りたい。